



園だより

第 11 号

令和 2 年 2 月 2 5 日

駿河台大学第一幼稚園

園 長 田所 恒子

引き継がれる遊びや生活

暖かな日差しの中、水栽培のヒヤシンスが花の房をぐんぐん伸ばし、先生や友達と一緒に驚きの声をあげる子どもたちの姿が見られます。日に日に大きく、美しく生長するヒヤシンスは、遊びや生活を思う存分楽しみ、進学や進級に胸を弾ませながら、著しい成長を見せる年度末の子どもたちの姿と重なります。

2月8日の展覧会、多数の保護者の皆様にご観覧いただきありがとうございます。子どもたちは、月曜日に登園してくるなり「お父さんやお母さんから上手だねって言われたよ」「素敵だねって言われた」と、たくさんほめていただいたことを嬉しそうに、得意げに報告してくれました。やる気や自信をもたらす魔法の言葉をかけていただいた子どもたちは、また一つ大きく成長しました。展覧会後も、本当に楽しそうに、そして大切に作品を使って遊んでいます。そんな他学年や他クラスの友達の姿や作品に「素敵だな」「自分たちも作ってみたい」という気持ちを高めています。

年長児は、展覧会で展示していたグループ製作の作品を『なかよしランド』の遊園地にして、年中児・年少児を招待してくれました。グループの友達と考え、相談しながら作ってきた年長児は、自分たちが作ってきた「コーヒーカップ」「ジェットコースター」「新幹線」「メリーゴーランド」「車」「電車」への愛着はとても大きく、遊び方を年中児・年少児に丁寧に説明し、乗せてあげていました。楽しそうな年中児・年少児の姿に、年長児は満足感や達成感を味わっていました。そして、この体験は、年中児・年少児に「今度は自分たちも作りたい」という気持ちを育みました。楽しい遊びがこうして引き継がれていきます。

小学校見学を終えて進学への期待が高まってきた年長児から、年中児は園庭片付けを引き継いでいます。「今度は自分たちが幼稚園で一番大きな学年になる」そんな自覚が年中児に芽生え、進級への期待を高めています。

そして、年中児は、育ててきたイチゴの苗を「美味しいイチゴジャムができるように、今度はみんなが育ててね」と年少児に引き継ぎました。イチゴは、年少児が年中組になる4月、白い花を咲かせ、そしてたくさん赤い実をつけてくれることでしょう。年少児は、年中児が育てたイチゴのジャムを食べたことを思い出しながら、進級への期待を高めています。

このように遊びや生活が、次の世代に引き継がれていきます。園の文化や園風というものはこのようにしてできていくのでしょうか。たくさん遊びや生活が引き継がれていく中で、今年度、是非引き継いで欲しいことがあります。それは、「挨拶」です。今年度、特に登園時、気持ちの良い挨拶を大切にしてきました。互いに顔を見て「おはようございます」と言い、そして頭を下げる、そんな挨拶の仕方を指導し、挨拶を交わす心地よさを伝えてきました。挨拶の大切さは新入園の方々にも伝え、引き継いでいきたいものです。そして、素敵な園の文化や園風としていきたいと思えます。保護者の皆様も是非ご協力ください。

今年度最後の園だよりとなりました。改めて各学年の保護者会でご挨拶をさせていただきますが、今年一年、本園の教育にご理解・ご協力いただきありがとうございました。



登園時に、昨日よりも大きくなったヒヤシンスの花を見て子どもたちは大喜びです。



なかよしランドのジェットコースターに乗せてもらう嬉しそうな年少児。ジェットコースターを動かす人、次の人を待たせる人、案内をする人と年長児は役割分担もできています。



展覧会で展示した「すきなどうぶつ」を使って動物園ごっこ。作品を遊びの中で使い、いっぱい楽しみました。



年中組最後の園外保育。府中郷土の森は梅の花が満開でした。



梅の花もすてきでしたが、落ち葉のプールはもっとすてきで楽しく落ち葉を投げ合いいっぱい遊びました。